

4年算数授業研究記録

平成19年6月25日(月)

1 授業者反省

(T 1)

- ・時間通りに進めることができて良かった。
- ・TTのよさを生かしたかった。ミニ劇をすることで導入がうまくいった。
- ・事前調査で今回の授業に関する問題をチェックしたら、10数名答えを出せる子どもがいたので、本時の学習では説明ができることを目的にした。
- ・3人で分けようだったので3グループにしたが(事前の授業で)グループが多すぎて意見がまとまらなかったので通常グループにもどした。

(T 2)

- ・席の配置で学力が気になる子どもたちに支援した。
- ・69を分ける授業をする際の適切な教材を何にしようか迷った。
- ・いろいろな意見を出させることができてよかった。

2 質疑応答

Q1:「支援カードを活用したのか？」

A1:「カードを準備したが、言葉の支援だけで大丈夫だった。」

Q2:「説明しように目標を設定した理由は？」

A2:「 $69 \div 3$ の筆算ができて理解しているとは言えない。分け方を考えさせたいという意図で説明しようにした。」

Q3:「めあてに『正しく』と書いてあるが、意味が分かっていなかったのではないか？」

A3:「速く計算できて合っていなければダメなので『正しく』という言葉を使った。

1枚ずつ数えたり、2枚一緒に数えたりしないように注意を向けさせたかった。」

Q4:「ミニ劇をしたがどのように結びつけたかったのか？1枚ずつ分けるのも間違いではないと思ったのだが。」

A4:「生活場面でありえる話である。ただし、答えを出すのが目的ではない。10のまとまりにしたり、ばらを分けたりする操作活動をさせたかったので、あえて教師が間違いを示した。」

Q5:「今後の授業でのTT指導や少人数指導について？」

A5:「子どもたちの希望に合わせてコース分けをしている。第4時から少人数指導を計画している。みんなでたくさんの意見を出す際は、TT指導、習熟を図る際は、少人数指導である。」

3 研究の視点について

(高学年)特別支援の在り方について

- ・必要な子にきちんとした支援が必要である。
考え方を学習する際は、クラスに入って学習するのもいい学習であると考えた。
- ・10のまとまりについて

初めから10の束を与えたり、20の束やその他の束というものを準備しておいた方が良かったのかもしれない。

(中学年)10の束について

・他のクラスでは資料の中に10のまとまりがあった。その方が良かったのかどうか分からない。

(低学年)

・楽しい授業ができていたと思う。次の学習に向けて良かったのは、10の束にしておいたことである。

(大学生)

・20の束だと20がひとまとまりであると考えた子どももいた。

4 指導助言

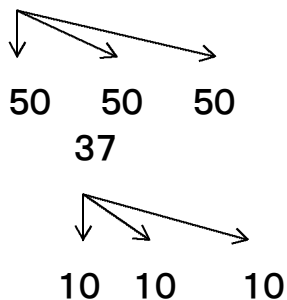
(鹿児島大学佐々先生)

・TTについて。喜入小は、TTの授業が特殊である。喜入小はT1が指導、T2が補助という形ではない。TTが2人で指導する形である。今度は、T1、T2のやりとりの中で子どもの中に葛藤を起こせないか。葛藤を起こせるようなTT指導を行っていた。

・10の束にこだわるのかこだわらないのか。

187→10×18ここで考えると2回基準を変えることはない。

187



→ 思考的にはよいが手間がかかる。

	繰り下がり	位数
① 69÷3	ない	(2桁)÷(1桁)
② 72÷3	ある	(2桁)÷(1桁)
③ 639÷3	ない	(3桁)÷(1桁)
④ 536÷3	ある	(3桁)÷(1桁)

子どもの実態によっては ①→③→②→④という順番に学習を進めても良い。

佐々先生流 ②→①→④→③

ばらさなくてもよい(①は②の特別版であるという考え)

4 指導講話

(校長)

・教師の影響力は大きい

・グループの人数がいる場合は、箱を準備した方が良かった。

- ・グループの人数についても研究することができると良い。
- ・2つの学級がある分, しっかりとした教材研究ができる。
- ・子どもたちは満足して帰ることができたのではないか。